

- ・協定（覚書）締結 …… (1)
- ・協定校、留学フェア …… (2)
- ・留学生、日本人学生関係行事 …… (3)
- ・センターから …… (4)

トリサクティ大学（インドネシア）と協定締結

インドネシアは東南アジア有数の産油国であり、かつ金属資源の宝庫でもあります。トリサクティ大学は1965年に設置された9学部よりなる総合大学です。トリサクティ大学はジャカルタにある最大の私立大学であり、現ジャカルタ市長やペルタミナ（インドネシア国営石油）幹部など多くの著名人を産官学へ輩出してきたため、トリサクティ大学と官庁・産業界との結びつきは強く、トリサクティ大学との関係強化は、今後の秋田大学の発展のみならず我が国の国益にとってもきわめて重要であると考えられます。

トリサクティ大学の卒業生が、大学院工学資源学研究科（博士前期課程地球資源学専攻）に在籍したことから、秋田大学とトリサクティ大学との交流が始まりました。本学の大学院博士課程リーディングプログラムや、今年度設立された国際資源学部において実施、計画されている本学学生の海外におけるインターンシップやフィールドワークに対してトリサクティ大学からの協力、支援が期待されています。

平成25年度よりトリサクティ大学との間で本学との学術交流協定の締結へ向けた協議を続けてきましたが、トリサクティ大学地質学科のDewi Syavitri博士が本学を訪問するにあわせ、先方の学長により署名された協定書を持参していただき、今回6月10日に本学の澤田学長が署名し、本学とトリサクティ大学との間での協定が締結されました。

（今井 亮：Imai Akira 国際資源学部 教授）



トリサクティ大学Dewi教授（左から3番目）
秋田大学長（右から3番目）

蘭州大学附属第一病院と覚書締結

中国の国家重点大学になっている蘭州大学の王乗・学長一行が6月12日、秋田大学を訪問されました。正味半日の短い滞在でしたが、澤田賢一学長らと会談した後、秋田大学医学部附属病院と蘭州大学附属病院との間で、新たに学術交流に関する覚書が締結されました。

秋田大学と蘭州大学は2005年に大学間協定を締結していますが、今回の覚書締結により病院間での人事交流や医療技術面における交流がさらに進展することが期待されます。今回、王学長らは秋田大学医学部シュミレーションセンターを見学しました。国内でも有数なその設備、システムに驚かれたようで、近い将来蘭州大学でも同じようなものを作る所存である旨発言されておられました。夜には市内のホテルで歓迎レセプションを開きましたが、日本滞在中の全行程を滞りなくやり終えた安堵感からか、非常に打ち解けた、アットホーム的なムードで交流を楽しむことができました。蘭州大学の一行も、日本式のレセプションに感激し、今度は是非蘭州でというご招待の言葉をいただきながら、国レベルの「緊張」を感じさせない友好的雰囲気でのレセプションを終えることができました。国際交流センター長として、医療における協力関係が良好に展開していくことを祈りつつ、両大学間の発展に寄与したいと考えております。

（山本文雄：Yamamoto Fumio
国際交流センター長）



蘭州大学附属病院長（左）
秋田大学附属副病院長（右）

インド工科大学マドラス校と協定締結

「理系王国」インドの名門・インド工科大学マドラス校（Indian Institute of Technology Madras: IITM）と3月、国際交流協定を結びました。同大学は、工学と科学技術を専門とするインドに15ある国立大学の1校で、基礎科学から応用工学まで16の学科には550人の教員と8000人の学生が在籍しています。IITは、インドで4番目に大きな都市圏であるチェンナイにあり、キャンパスは東京ドーム53個分の広さ、広大な国立自然公園と隣接しており、学内の至る所で国立自然公園を抜け出した野生動物が歩いています。2012年12月に数理・電気電子情報学科の鈴木雅史教授、2014年1月に国際課高橋康弘課長とチェンナイを訪問し、IIT Madrasの電気工学科教授Prof. Sarathiとのこれまでの交流実績を踏まえ、学生の相互交流を可能にする国際交流協定を締結致しました。英語力を伸ばしたい、海外で力を試したいと思っている秋田大学に在籍する博士課程の学生の皆さん、ぜひ、応募されてください。数ヶ月程度の短期の滞在でも、現地での住まいと食事は全てIIT側で面倒をみてくれますので、インド料理の様にスパイシーな研究生生活を体験できると思います。

（水戸部一孝：Mitobe Kazutaka 大学院工学資源学研究科 教授）



日中大学フェア&フォーラムin CHINA 2014

平成26年3月17日～24日の日程で、(独)科学技術振興機構(JST)主催の日中大学フェア&フォーラムin CHINA 2014(北京・杭州・上海ルート)に参加してきました。秋田大学からは国際交流センターの楊帆先生、国際課の林さん、産学連携推進機構の伊藤の3名で参加いたしました。北京では日中大学フォーラムと題し、中国科学技術交流中心副主任邢継俊氏や2010年ノーベル化学賞受賞者根岸英一先生が、研究と産学連携に係るテーマで日中が連携した産学連携に係る可能性についてご講演を聞き双方の取り組みを理解しました。杭州では浙江大學サイエンスパークの視察、上海では日中大学フェアと題し、秋田大学ブースを設け、秋田大学の産学連携の取り組み事例の紹介をするとともに、留学希望の学生に対して、秋田大学で学べること、大学の特色や秋田の生活、気候、文化等を説明しました。今般の取り組みをきっかけにさらなる日中の友好と本学への留学希望者が増えることを望んでおります。



(伊藤慎一: Ito Shinichi 産学連携推進機構 特任講師)

日本留学フェア(サンディエゴ)

2014年5月25日～5月30日まで、アメリカのサンディエゴで行われたNAFSA(The National Association of Foreign Student Adviser)の年次大会に参加しました。大会には、世界中から国際教育に関わる専門家が集まり、ブースでの広報活動、ワークショップ、講演などが行われました。

今回、秋田大学はブースを出展しませんでした。本学と大学間協定を結んでいる大学や、日本国内、海外の大学の教職員らと学生交換の方法や可能性について協議を行いました。協定校との交流を実質的なものとして継続するためには、教育プログラムの詳細や各大学の方針を相互に把握することが必要であり、担当者が直接顔を合わせて協議する機会の重要性を再認識しました。



(市嶋典子: Ichishima Noriko 国際交流センター 准教授)

国立ハンバット大学 宋晩翼(ソン・マニク)教授のご訪問

3月31日から4月3日まで、国立ハンバット大学校日本語学科の宋晩翼教授が秋田を訪問されました。同大学日本語学科からは毎年5名ずつ交換留学生が来日していますが、その引率を兼ねて、学生の入国と同時に来られたものです。本学では、留学生会館・国際交流会館の視察、センター長やセンター教員との面談などを行い、また到着日の夜には、ハンバット大学・ウォンガン大学校および江原大学校からの留学生とともに、秋田で韓国人留学生の支援と交流を進める「秋田・韓国留学生支援会」の方々との交流会もありました。

韓国とのあいだでは、政府間の対立がニュースで盛んに報じられていますが、一方で民間交流は着実に進んでいます。本学での学生交流もその一環として、継続していく必要があると痛切に感じています。



宋晩翼教授(右端奥)

(高村竜平: Takamura Ryohei 教育文化学部 准教授)

新留学生オリエンテーション

4月3日、国際交流センターでは新留学生を対象に、「平成26年度春季秋田大学外国人留学生オリエンテーション」を実施しました。新留学生30名が参加し、キャンパスツアーの他にキャンパス生活をする上で必要な施設や手続き等についての説明が行われました。



オリエンテーション終了後は、大学会館を会場に近隣住民を招いての懇談会を行い、地域の方々や他国学生との会話を楽しみました。また、秋田大学混声合唱団“A Choir”のみなさんから歌のサプライズプレゼントがあり、参加留学生は渡日後の疲れが少し取れた様子でした。近隣町内会、A Choirのみなさまには改めて感謝を申し上げます。



(高橋幸江: Takahashi Yukie 国際課留学生交流・支援担当)

平成26年度第1回秋田大学海外留学説明会

5月23日に海外留学を希望する学生に向けて、海外留学説明会を開催しました。交換留学制度の説明と協定校紹介に続いて、郡司理沙さんと佐々木亮さんの2名が留学体験発表を行いました。

2013年3月から12月まで、イタリアのカリアリ大学に留学していました。大学のあるサルデーニャ島は、日本の沖縄のような存在。気候は温暖で、ゆっくりとした時間の流れる場所です。サルデーニャ島での留生活では、公的手続きすらも適当に済ませてしまうイタリア人気質に、幾度となく悩まされたものでした。加えて、私はイタリア語を事前に学ばずに渡航したため、周囲との意思疎通においてもかなりの困難を伴いました。そのような生活の中で、強く実感したことがあります。それは、「自分が動かなければ何も始まらない」ということです。当たり前のことのようにも思えますが、日本帰国後の今、忘れてしまいそうになります。それは、何も行動せずとも、容易に生活でき、言葉も通じ、誰かが助けてくれる、そんな環境がここにはあるからです。気づきにくいけれど大切なことを教えてくれた留学は、私にとって大きな意味のあるものだった、と感じています。



筆者右から4番目

(郡司理沙: Gunji Risa 教育文化学部 国際言語文化課程4年次)

留学ウィーク

5月26日・27日・28日に、秋田大学で学んでいる協定校からの交換留学生6名が、それぞれの母校の大学紹介を行いました。留学を検討中の日本人学生が参加し、留学先を選ぶための情報収集を行いました。

The University of Bucharest is one of the oldest modern universities in Europe and offers a widespread learning curriculum. UB has several buildings, libraries and cafeterias scattered throughout the city, not just one campus. So student discounts are available mostly anywhere you go, from Xerox facilities to fancy restaurants.

There are many classes taught in English in which you can enroll for international and Romanian students. You can go to classes that are taught in Romanian as well. If you're worried you won't understand, you can ask someone, student or professor, for explanations in English. Romanian language classes are provided at the Faculty of Letters. Also, the always helpful and friendly students from Japanese Studies have set up a volunteer-based Romanian language class especially for the Japanese exchange students.

Romanian prices are generally cheaper than the ones in Japan. To this, add your student discount for transportation, food and any cultural event you want to go to. Living in a dorm is also very cheap, monthly rent being much cheaper than an apartment.

And then there's our renowned hospitality, which makes it impossible for you to leave a Romanian's house without being 2 kg fatter than when you came. I'd start packing if I were you!

(Militaru Irina: 教育文化学部特別聴講学生)

★ ハイファ大学留学記

2013年10月から2014年6月まで、イスラエルのハイファ大学で交換留学をさせていただきました。

イスラエルは日本の四国ほどの小さな国ですが、世界中から注目を集めている国です。ユダヤ人は歴史的にも世界中他のどの民族にもない歴史を歩んできました。1700年もの間国家を持っていなかったにもかかわらず、世界中に散らばった各地でその宗教と伝統を守り続けました。1948年に約束の地イスラエルに建国を果たして以来、300万人以上のユダヤ人が帰還を果たし、建国時100万人に達していなかった人口は現在800万人を超えています。世界中の文化が混ざりあい、普段はまとまることのないイスラエルですが、祝い事や記念日には国を挙げてみんなでお祝いをします。ユダヤ教のお祭りは留学中の楽しみの一つでもありました。特に旧約聖書のエステル記にも記述されているプリムというお祭りは、皆変装をしてパーティーへ行ったりパレードに参加したりととても賑やかなお祭りです。エステル記を読むと、当時から反ユダヤ主義が存在していたことがわかります。残念ながら、日本にも私が知る限りでは、ナチスドイツが台頭した第二次世界大戦の頃から反ユダヤ主義の影響がありました。

この留学を通して学んだイスラエルの本当の姿を、一人でも多くの人に伝えたいです。イスラエルのことを知らない人には、興味をもってほしいです。そして私自身ももっとイスラエルのこと、そしてその宗教のことを研究していきたいです。

(佐々木美祐: Sasaki Miyu 教育文化学部 国際言語文化課程4年次)



クリスマスのGroup Dinner (筆者中央)

モンゴル出張報告

5月23日に「秋田大学モンゴル事務所」を訪問しました。「秋田大学モンゴル事務所」は秋田大学初の海外事務所であり、平成24年10月8日、モンゴル科学技術大学（以下MUST）内に開設されました。室内に揃えられた大学の概要や入試関連の資料は定期的に更新され、秋田大学に留学を希望する学生への情報提供を行っています。また、本事務所を拠点としてMUSTの教員と秋田大の教員による共同研究の遂行や、今後は資源学インターンシップ等で研修を行う学生が滞ることも予定されています。

この日はちょうど大学の卒業イベントの日にあたり、国会議事堂前の広場には色鮮やかな衣装に身を包んだ多数の卒業生がモンゴル国内から集まっていました。モンゴルの大学では6月初旬に卒業試験を行うため、まだ卒業が確定していない学生も参加しており、試験に向けた決起集会のようにも感じられました。

(佐野信子：Sano Nobuko 国際課国際企画担当)

副センター長あいさつ

4月に国際交流センター副センター長に就任しました。主に留学生や秋田大学生の派遣支援に向けた制度の整備を担当していく予定です。

私の元々の専門はロシア文学ですが、最近は映画・アニメについても研究を行っています。また、所属する教育文化学部ではロシア語、ロシア文化関連の授業も担当しています。その関係で、学生研修旅行を主催し定期的にロシアへ行くこともあります。大学の国際交流を責任ある立場で推進していくのは初めての経験で、身の引き締まる思いです。

ここ数年、秋田大学に来る留学生の数は着実に伸びており、現在、約200名に及んでいます。今後も留学生の増大をはかるとともに、教育・生活の面で一層質の高い支援ができるようにしていかなければなりません。一方、本学から海外に留学する学生が極めて少数に留まっているのも大きな問題です。改善にあたっては難しい所も多々ありますが、できるだけことをしていきたいと考えています。

(長谷川 章：Hasegawa Akira 教育文化学部人間文化講座 教授)



着任のあいさつ

佐々木先生から一言

4月1日に助教として着任した佐々木良造です。高校までを群馬県高崎市で過ごし、東北大学で日本語教育を学びました。大学を卒業してから韓国の釜山で1年間日本語の先生をしました。日本に帰って東北大学大学院を修了し、仙台市内の日本語学校に勤めました。その後マレーシアの大学で4年間日本語を教え、帰国して拓殖大学（東京）や関西学院大学（兵庫）などで留学生対象の日本語科目や日本語教員養成科目を担当してきました。

秋田大学では教養教育科目の留学生対象日本語科目、多文化コミュニケーション入門、海外短期研修、日本文化入門を担当しています。日本語科目以外は秋田大学に来てから初めて担当する科目で、毎回新鮮な気持ちで授業に臨んでいます。

家族は妻と2歳の息子の3人家族です。秋田のお米がおいしいからか、親に似たからか、息子はとにかくたくさん食べます。家族共々、どうぞよろしくお祈りします。

(佐々木良造：Sasaki Ryoza 国際交流センター 助教)



平田先生から一言

今年4月に国際交流センターに赴任した平田未季と申します。専門は言語学です。人と人が言葉、ジェスチャー、視線、そして対話の場面に存在する様々なものを通してどのように互いの意図を伝えあってきたのか、またそのような場面の積み重ねがどのように現在の言語体系に反映されているのかということに興味を持ち、研究をしています。

目の前で日々展開される留学生達のコミュニケーション場面からも学ぶことが多々あります。彼らが、他の場所ではなく秋田という場で学ぶことの意義を実感できるよう、今後、日本語教育プログラムを充実させていきたいです。とはいえ、私自身まだ秋田に来てようやく3ヶ月目なので、これから秋田及び秋田大学の魅力を学生と共に発見していきたいと思えます。

(平田未季：Hirata Miki 国際交流センター 助教)



■国際交流協定校情報

大学間協定（合計27ヶ国・地域：53大学等） 部局間協定（合計9ヶ国・地域：16学部等）

(2014年7月1日現在)

■秋田大学の留学生数

合計191名 学部生：83名 大学院生：46名 交換留学生・研究生等：62名

(2014年5月1日現在)